

2-4 大学改革の進展（例）

1. カリキュラム改革の実施状況

- 過去5年間（平成14年度～平成18年度）において、全体の約8割の607大学（約85%）が、カリキュラム改革を実施している。

- 教養教育科目でインターンシップを取り入れた科目の開設状況
46大学（約8%：平成10年度）→ 229大学（約32%：平成18年度）

- 外国語による授業の実施状況
234大学（約36%：平成12年度）→ 333大学（約46%：平成18年度）

- 外国語教育の改革
 - <目的別クラス化>
188大学（約34%：平成6年度）→ 465大学（約65%：平成18年度）
 - <能力別クラス化>
108大学（約20%：平成6年度）→ 471大学（約66%：平成18年度）
 - <L. L. ビデオ等の活用>
221大学（約39%：平成6年度）→ 621大学（約88%：平成18年度）

- ボランティア活動を取り入れた授業科目の開設状況
63大学（約12%：平成5年度）→ 273大学（約38%：平成18年度）

- 情報（処理）教育の実施状況
 - <情報処理教育を必修化>
218大学（約40%：平成5年度）→ 555大学（約78%：平成18年度）
 - <専用の教室を設置>
440大学（約80%：平成6年度）→ 698大学（約98%：平成18年度）

2. 授業の質を高めるための具体的な取組状況

- シラバスの作成状況
80大学（約15%：平成4年度）→ 701大学（約96%：平成18年度）

- 履修科目登録の上限設定（キャップ制）の実施状況
272大学（約42%：平成12年度）→ 453大学（約64%：平成18年度）

- 厳格な成績評価（GPA制度）の導入状況
67大学（約10%：平成12年度）→ 294大学（約40%：平成18年度）

- 高等学校での履修状況への配慮
240大学（約44%：平成6年度）→ 436大学（約61%：平成18年度）
- セメスター制の採用状況
200大学（約41%：平成6年度）→ 639大学（約90%：平成18年度）
- 学生による授業評価の実施状況
38大学（約7%：平成4年度）→ 541大学（約74%：平成18年度）
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）の実施状況
151大学（約28%：平成5年度）→ 628大学（約86%：平成18年度）

<新任教員研修会の開催>

40大学（約7%：平成5年度）→ 266大学（約36%：平成18年度）

<教員相互の授業参観>

8大学（約1%：平成5年度）→ 281大学（約38%：平成18年度）

<センター等の設置>

17大学（約3%：平成5年度）→ 145大学（約20%：平成18年度）

3. 単位互換、編入学等「開かれた大学」への取組状況

- 4月以外の入学者受入れの実施状況
学部 27大学（約5%：平成9年度）
→ 290学部（約15%：平成18年度）
研究科 59大学（約14%：平成9年度）
→ 484研究科（約29%：平成18年度）
- 社会人学生の受け入れ
<社会人特別選抜実施大学>
学部 93大学（平成元年度）→ 495大学（平成19年度）
大学院 53大学（平成元年度）→ 409大学（平成19年度）

<社会人特別選抜入学者数>
学部 2,121人（平成元年度）→ 2,261人（平成19年度）
大学院 1,827人（平成元年度）→ 17,215人（平成19年度）
- 単位互換制度を設けている大学
123大学（約25%：昭和63年度）→ 567大学（約78%：平成18年度）

○ 昼夜開講制の実施状況

学 部 15大学（平成4年度）→ 50大学（平成19年度）
 大学院 58大学（平成4年度）→ 307大学（平成19年度）

○ 夜間大学院の開設状況

4大学（平成4年度）→ 28大学（平成19年度）

4. 自己点検・評価、教員の教育面の業績評価等の実施状況等

○ 学外有識者の意見反映のための諮問機関等の設置状況

22大学（約 4%：平成7年度）→ 185大学（約25%：平成18年度）

○ 教員の教育面の実績評価の実施状況

103大学（約16%：平成12年度）→ 285大学（約39%：平成18年度）

（参考）平成18年度の基本データ（平成18年5月1日現在）

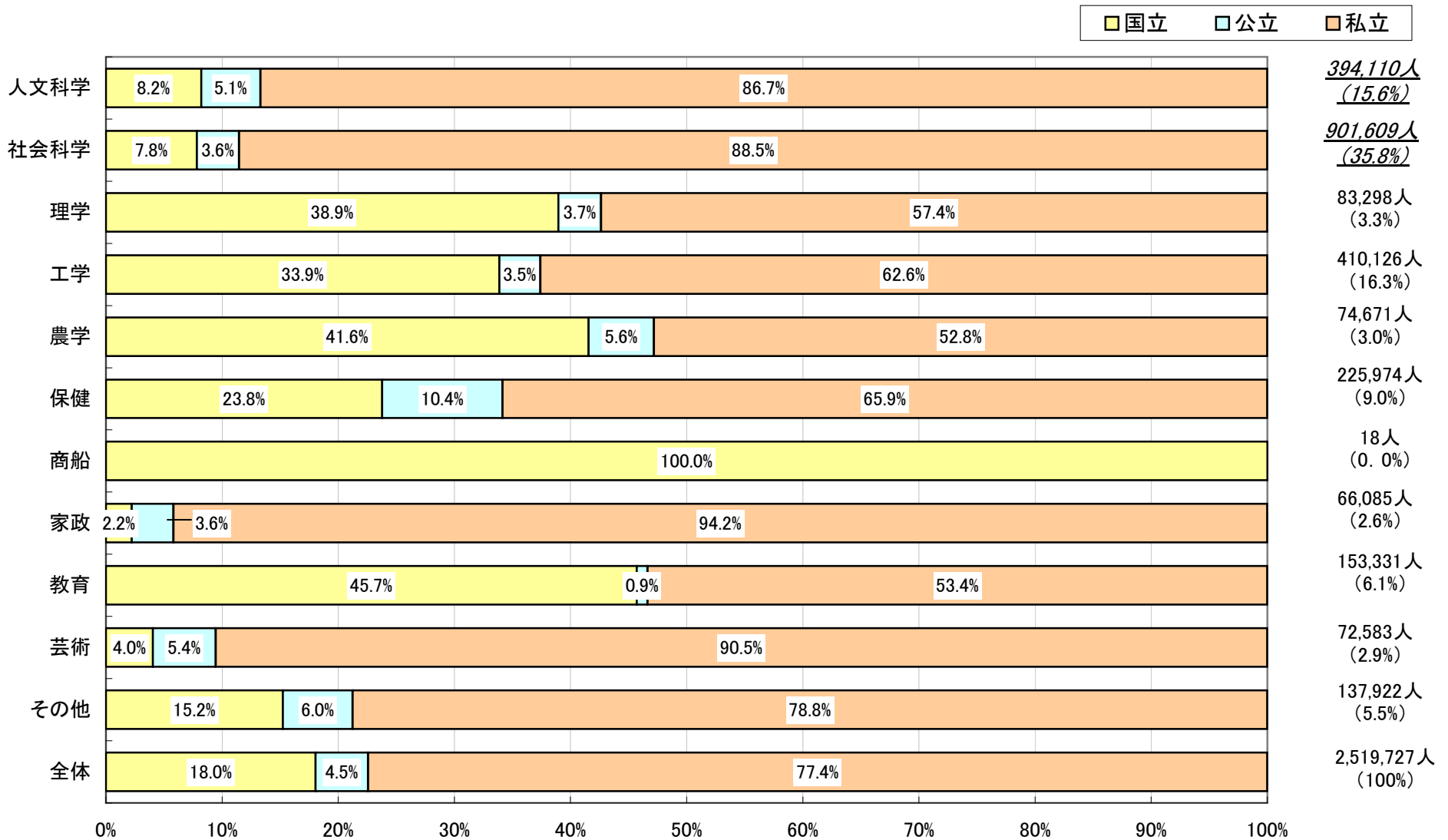
	大 学 数	学 部 数	研 究 科 数	学 部 学 生 数	大学院学生数
国 立	87(86)	357	414	459,716	153,327
公 立	76(64)	161	139	110,047	14,319
私 立	567(426)	1,415	1,084	1,935,122	93,403
放 送 大 学	1(1)	1	1	84,553	7,075
計	731(577)	1,934	1,638	2,589,438	268,124

※ （ ）内は、大学院を置く大学数

※ 放送大学以外の通信制は除く

（出典）文部科学省「大学における教育内容等の改革状況について」（2008）

2-5 設置者別 関係学科別 学生数の割合



> 人文・社会系の学生数(約130万人)は、全学生数の約半分を占める。

2-6 分野別にみた学士課程カリキュラム編成の特徴

◆ 4年間の履修の構造化の度合い

* 文系は専門の開始が遅い。 * 文系は学年ごとの構造化が弱い。 * とくに社会系は卒論がない学部が多い。

	人文	社会	理工
1年次で必修の専門教育科目がある	80.4	68.0	88.2
2年次で教養よりも専門の必修の方が多い	52.8	41.6	78.9
特定の学年で単位修得しないと進級できない科目がある	25.8	26.9	54.4
卒業論文・制作がある	73.1	32.7	87.1

◆ 大綱化以降の変化の認識

* 人文系は、学生の選択肢が拡大し、教養教育では履修の共通性が減少し、専門教育は学際的になっている。

* 理系は、補習や導入教育が増加しているが、大学院を視野に入れたカリキュラム編成を考えるようになった。

* 理系では、担当の違いによる教員間の差別が残っているものの、教員間で授業内容で調整を図るようになっている。

	人文	社会	理工
学生の科目選択の幅が拡大	86.8	79.4	72.2
教養教育に関する学生の履修の共通性が減少	40.2	36.4	31.5
専門教育が学際的になった	61.2	48.2	49.0
教養教育に占める補習や導入教育の比重が増加	23.0	31.1	47.0
大学院教育を視野に入れて学士課程カリキュラムを編成	27.7	23.9	54.3
科目区分の担当の違いによる教員間の差別が残存	19.5	19.5	33.3
教員間で授業内容について調整を図ることが多くなった	55.6	48.9	64.9

◆ カリキュラムの編成方針

* 文系は、学際的に、学生の学力水準に合わせるために、テーマ別科目を多く設定 * 人文は、教養と専門の担当が分化していない。

	人文	社会	理工
専門教育の内容を学際的に (専門教育の内容を高度化)	65.6	64.3	57.0
教養教育はテーマ別科目を多く (教養教育は3系列の科目を多く)	64.4	60.1	52.1
学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成 (学部の要求水準を前提にして)	63.9	66.0	54.8
教養と専門教育との担当教員を分ける (どの教員も教養・専門科目を担当)	18.9	45.1	36.7

注)上記の数値は、二項対立的な質問のうち、前者を選択した比率。()は対立する質問項目。

◆ 学際化の陥穽

* 人文系・社会系で、「学生の科目選択の幅を増大」、「学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成」を方針としているところでは、そのカリキュラムを学際的にすることを考えているところが多い。 * 文系の場合、カリキュラムの学際化は、学生の学力水準にあわせ、選択の幅を大きくすることを意味する傾向がある。

	人文	社会	理工
学生の科目選択の幅を増大 (学生の必修を増加)	67.1 (59.0)	68.2 (54.4)	58.0 (54.3)
学生の学力水準に合わせてカリキュラム編成 (学部の要求水準を前提にして)	72.2 (53.8)	69.6 (53.9)	62.9 (50.0)

注)上記の数値は、二項対立的な質問のうち、前者を選択した比率。()は対立する質問項目。



＜文系のカリキュラム編成の特徴＞

* 学際化、自由化、多様化 * 構造化が弱い

【調査概要】

実施時期: 2003年10月
対象: 4年制大学の全学部(1,776学部)
有効回答数: 1,000(回収率: 56.3%)

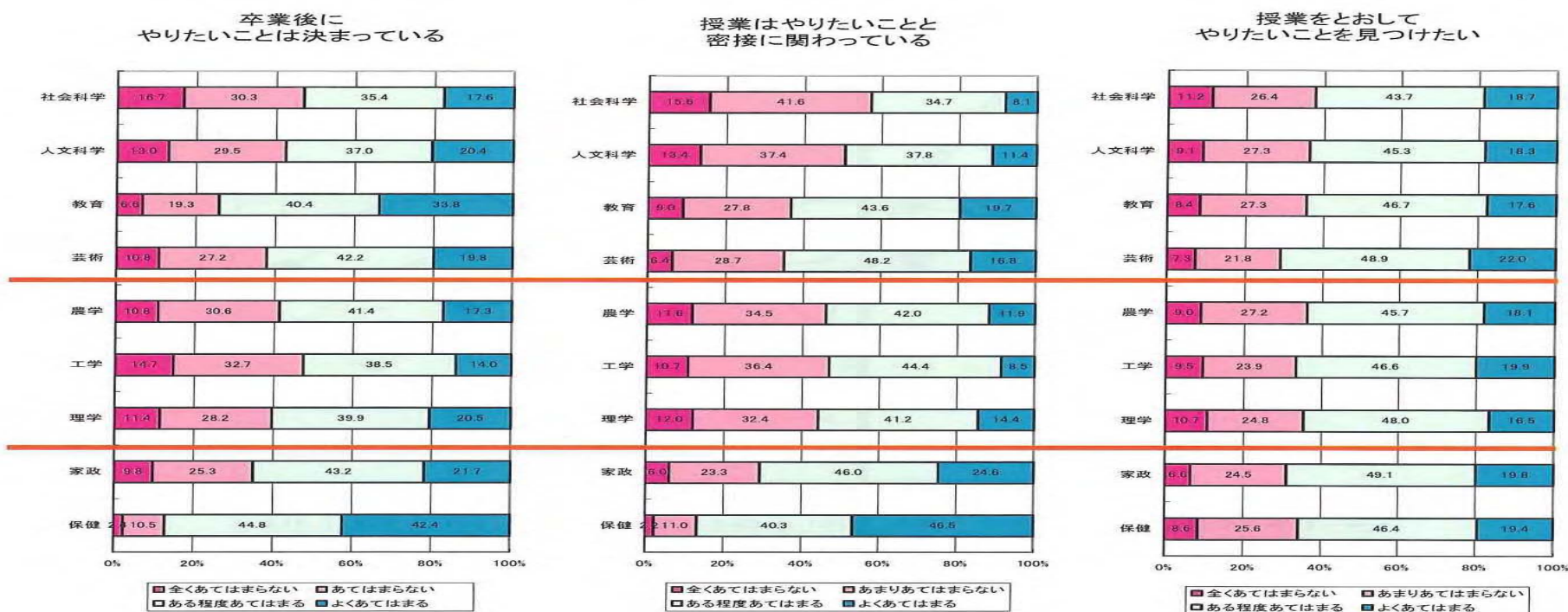
【出典】

平成19年12月3日中央教育審議会 大学分科会制度・教育部会及び
学士課程教育の在り方に関する小委員会合同会議
吉田文専門委員発表資料より抜粋

2-7 分野別 学生の学習態度等

◆ 分野別 自分の志望と大学教育

- 卒業後の希望については、保健、教育で確信が強い。他の系統では必ずしも明確とは言えない。
- 授業とやりたいこととの関係では、保健で最も高く、家政、芸術などが次ぐ。教育は卒業後の志望は明確だが、それが大学での授業と必ずしも明確に関わっていない。しかし、一般的に、授業の関連性を高く評価していない。
- 学部系統にかかわらず、「授業をとおしてやりたいことを見つけたい」という希望が強い。



【調査概要】

調査期間：平成18年12月～平成19年11月

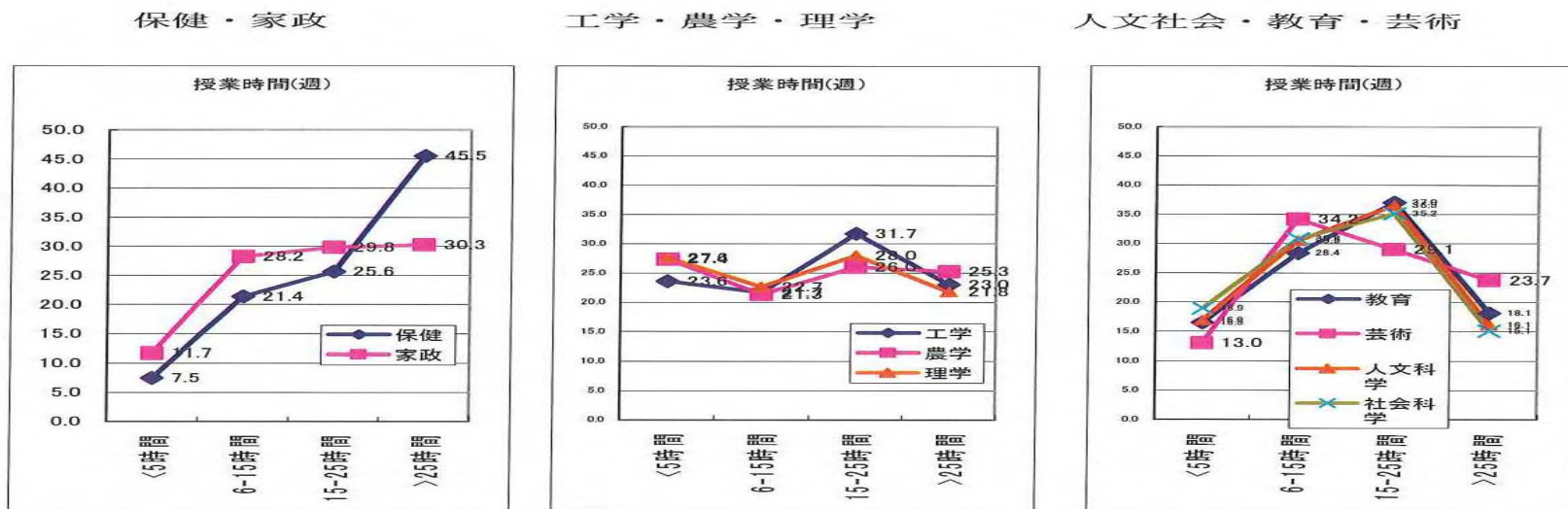
調査対象：127大学288学部 回答数48,233人

【出典】平成20年2月28日

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会及び学士課程教育の在り方に関する小委員会合同会議
金子元久委員発表資料より抜粋

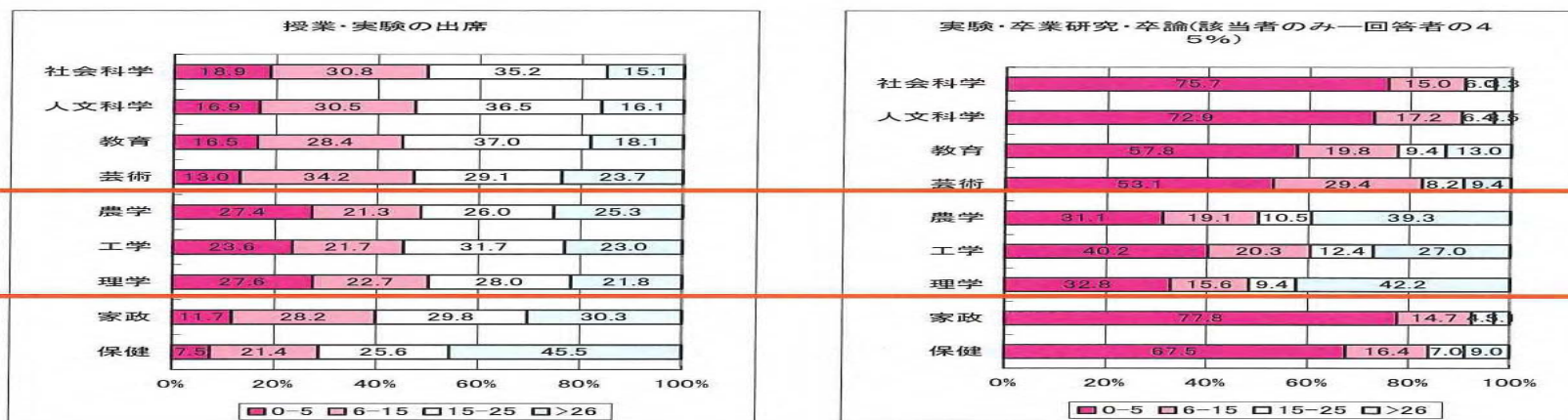
◆ 分野別 授業への参加状況

○ 人文・社会・芸術：週15-25時間にピーク。25時間以上は少ないが、ある程度はある。



◆ 分野別 授業関連の実験・卒業研究への参加状況

○ 授業実験については、保健・家政が高い。他の分布はあまりかわらない。
○ 人文社会系は、組織的な活動(実験・卒業研究・卒論)への参加は高くない。



【調査概要】

調査期間：平成18年12月～平成19年11月
調査対象：127大学288学部 回答数48,233人

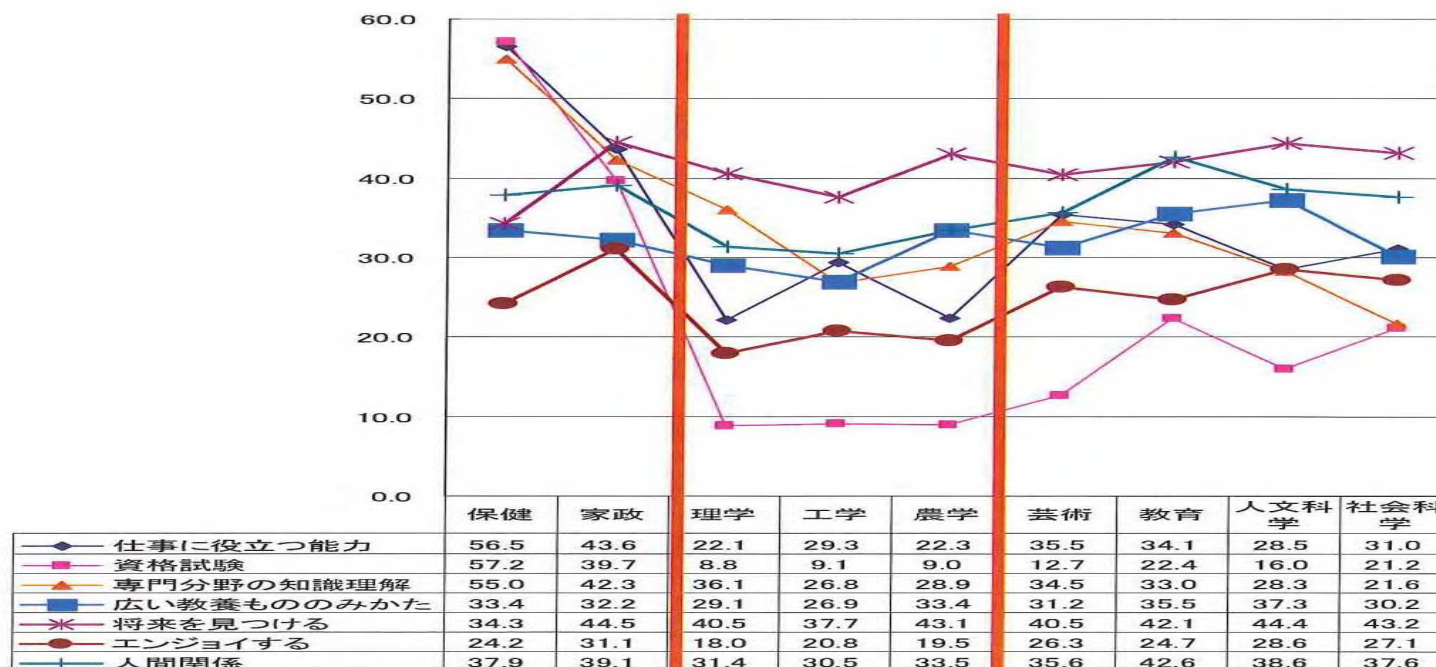
【出典】平成20年2月28日

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会及び学士課程教育の在り方に関する小委員会合同会議
金子元久委員発表資料より抜粋

◆ 分野別 在学中の獲得目標

- 将来を見つけることは、分野によらず、獲得目標として多くあげられた。
- 人文・社会では、「人間関係」、「広い教養もののみかた」が多くあげられた。
- 在学中を「エンジョイする」という目標は、理学・工学・農学よりも人文・社会において多くみられた。

在学中の目標－「きわめて重要」の割合



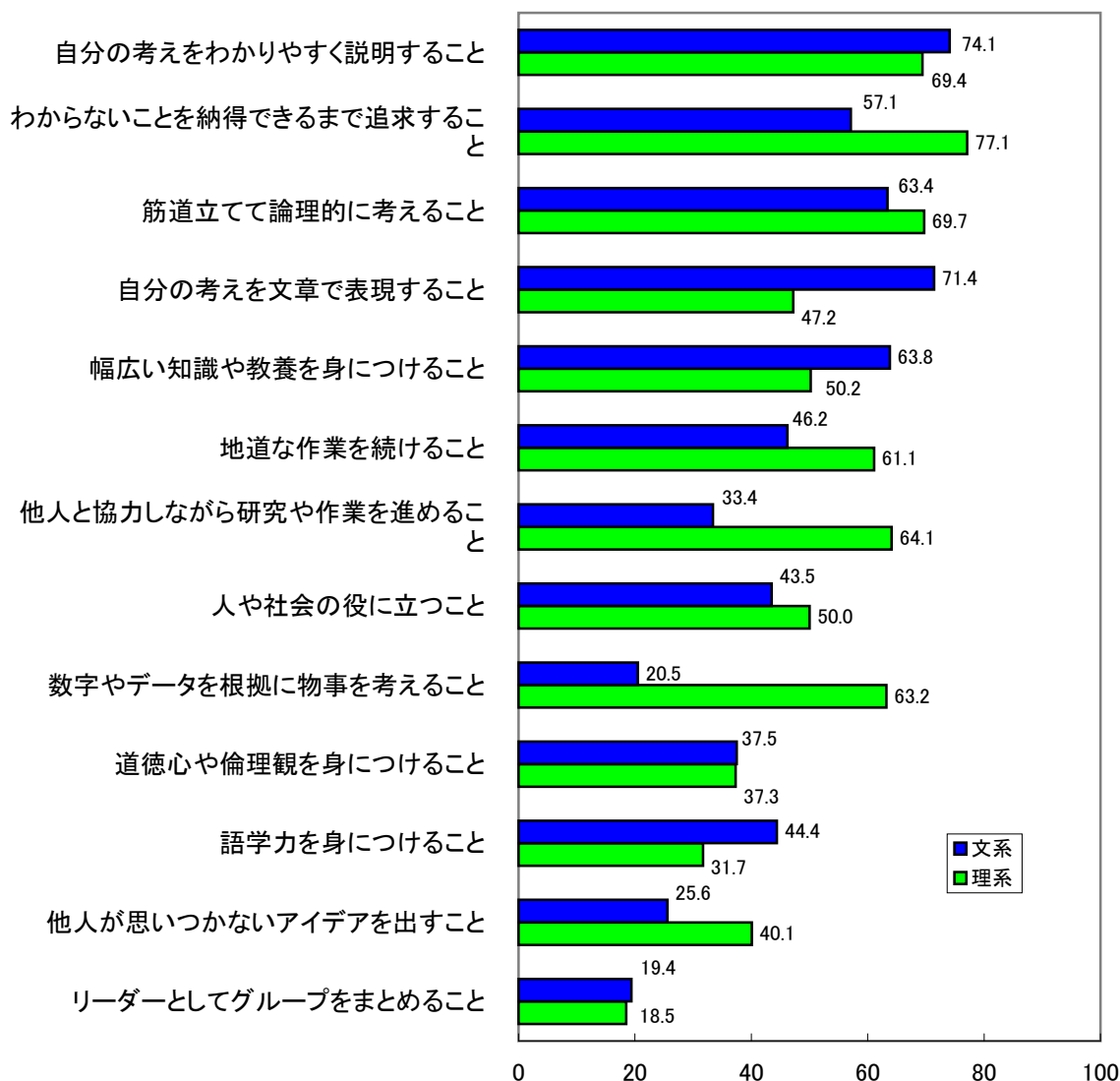
【調査概要】

調査期間：平成18年12月～平成19年11月
 調査対象：127大学288学部 回答数48,233人

【出典】平成20年2月28日

中央教育審議会大学分科会制度・教育部会及び学士課程教育の在り方に関する小委員会 合同会議
 金子元久委員発表資料より抜粋

◆ 文理別 専門領域に重要な能力・態度



※数値は「とても重要」の比率(%)。

※専攻の文理別について、「文系と理系の間」「どちらでもない」と回答した者は図から省略した。

【調査概要】平成17年1月から2月にかけて、全国4年制大学に通う文系男子学生2500名、文系女子学生2500名、理系男子学生2500名、理系女子学生2500名、合計10000名を抽出し、郵送によるアンケート調査を行った。回答者の内訳は、「1年生」が29.6%、「2年生」が24.0%、「3年生」が24.4%、「4年生」が21.9%、「無答不明」が0.1%。
有効回答数は6463通(回収率64.6%)

(出典)ベネッセコーポレーション「進路選択に関する振り返り調査」(2006)